



## 大図研関西 3 地域グループ合同例会のご案内

### 大学図書館の資料保存：体制の構築と継続

資料保存の運営体制をどうやって構築していくか、またどのように保存活動を継続的に実施していくかといった観点から資料保存活動に取り組んでおられる講師の皆様から御講演頂く予定です。

日 時：2019年3月2日（土）13:30-16:50（13:00 開場）

会 場：難波市民学習センター 第2研修室

<アクセス><https://osakademanabu.com/namba/access>

内 容：

報告1 藤井亜希子氏（和歌山大学図書館）

内容（予定）：和歌山大学図書館における虫害・カビ害等への対応

報告2 由利江里子氏（大阪大学大学院理学研究科数学専攻図書室）

内容（予定）：一橋大学社会科学古典資料センター西洋古典資料保存実務研修への参加経験から

報告3 京都大学図書館資料保存ワークショップ

（八木澤ちひろ氏〔京都大学〕、永田千晃氏〔京都大学〕、山崎千恵氏〔京都大学〕）

内容（予定）：京都大学図書館資料保存ワークショップの活動

参加費：会員・非会員とも無料

その他：終了後、懇親会を予定しています

申込方法：決定次第、別途大図研 ML で通知申し上げます

#### [目 次]

大図研関西 3 地域グループ合同例会のご案内	…	1
グループ委員 挨拶	…	2
大図研京都ワンデイセミナー「“羊さん” こと水知せりさん（漫画家）が語る「“学術情報の伝達”と“利用者の活用術”」」	児玉 恭祐	… 5
会費ご納入のお願い	…	8

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：[kyoto@daitoken.com](mailto:kyoto@daitoken.com)（大学図書館問題研究会京都地域グループ）

URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

## グループ委員 挨拶

2018/2019 年度グループ委員を務めさせていただきます 12 名よりご挨拶させていただきます。今年度もより一層京都地域グループを盛り上げていきます。これからも大図研京都地域グループをどうぞよろしくお願いいたします。

### ● 研究企画 (安東 正玄)

大学図書館の部署から学部事務室に異動して、はや2年が経過しました。事務室の仕事にも慣れ、履修相談の学生相談時には思わず「図書館のデータベース知ってる？」と投げかけたりもしながら仕事をしています(事務室では私ぐらいです(笑))。しかし事務室にいと本当に大学図書館が何をしているのか情報が届きません(図書館に入館するといろいろ情報が掲示されており、頑張っていることは知っていますが、それだけいつも残念に思います)。学部・授業と図書館の連携の重要性は図書館にいたことから認識はし、教員と立ち話はたくさんしてきましたが、残念ながら教員の反応はいまいちです。

そのような意識の中で京都地域グループでは、2018年11月4日に「エンベディッド・ライブラリアン」の企画を外国講師も招いて実施し、私としても、「図書館にはいないけど図書館員として。。。」「頑張れないものかと強く感じました。しかし問題は大学図書館側が、そのような人々を応援する意識が無ければ、空回りで終わります。大学図書館の役割について、改めて考える時期でそれを実践しないと、どうなることやらと感じている今日この頃です。

あんどう せいげん (立命館大学法学部事務室)

### ● 組織・財務 / Twitter (内田 栞)

私事で恐縮ですが、今年度子どもが生まれ、現在育休をいただいております。

1日の大部分を仕事として図書館に関わっていた生活から一変し、1日のほとんどを子どものことを考えて過ごす生活をしています。

そのような状況のため勉強したくても、なかなか積極的にできないのですが、大図研の会報やメールマガジン等を通して、大学図書館の情報に触れることができるのは大変ありがたいことだなと感じています。

今年度は Twitter および組織財務担当になりました。微力ながら、会員の皆様への情報発信や運営のお手伝いをさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

うちだ しおり (京都大学附属図書館)

### ● 副グループ代表 / グループ報編集 / 「大学の図書館」編集 (坂本 拓)

早いもので、京都地域グループ委員をさせていただいて、今年で13年目になりました。13年前に比べ、どの職場でも職員の削減が進み、1人が担う業務量が劇的に増えました。

そのため、大図研のような勤務外の活動に力を割くことが難しくなっている人も増え

ているのかなと思ったりもするのですが、私の周りでは、まだまだ力を持て余して、それを大図研でいかんなく発揮してくれている若手の方が多いです。

そのような方々を見ると、元気づけられるとともに、そのような方々の活躍の場になっている大図研の重要性を感じます。今年度も微力ながら頑張りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

さかもと たく (京都大学附属図書館)

● 組織・財務 / 「大学の図書館」編集 (寺升 夕希)

京都地域グループ委員としてあいさつを書き始めてから数年が経ちます。この間、支部報編集や Web サイト、広報・デザインなど様々な業務を担当させていただきました。考えてみると外部に向けた情報提供に関する業務が多い印象です。昨年は初めて管理部門にあたる組織財務を担当し、今期も継続して組織財務および「大学の図書館」の編集を担当することになりました。

適材適所という言葉がありますが、自分自身には何が当てはまるのか、向いている仕事は何か、日々の業務においても明確な答えを出すのは難しいと思います。どのような業務を担当するにしても、大図研の運営に欠かせないことは間違いありません。会員の方はもちろん、会員でない方にも、少しでも大図研に興味関心を持ってもらい、携わっていただけるよう努めたいと思っています。よろしく願いします。

てらます ゆうき (滋賀医科大学附属図書館)

● 副グループ代表 / グループ報編集 / グループ報印刷と発送 (長坂 和茂)

私にとって今年 2018 年は、2008 年に就職してから 10 年が経ち、大図研に入ってから 10 年、地域グループ委員 (当時は「支部委員」でしたが) になってからも 10 年、と個人的に節目の年となっていました。

先日たまたま、10 年前の文書で、電子ブックの取り扱いについて定めたものを発見しまして、現在とはかなり状況が異なることに驚きました。十年一昔とは言いますが、図書館の仕事は去年と同じことをやっているけど、10 年前とは全然違うことをやっている、のだと改めて思った次第です。

ということは、私が司書講習を受けた 12 年前や就職したての 10 年前に覚えた知識は、もう古くなっている、と言っても過言ではありません。大図研などの場を活用して常に勉強を続けることが専門職たる司書に必要なことなのだと実感した出来事でした。

ながさか かずしげ (京都大学工学研究科桂建築系図書室)

● グループ代表 / メールマガジン (野間口 真裕)

昨年度より引き続き、グループ代表を務めさせていただきます。

改めて確認しますと私は 2009 年度より支部委員を務めさせていただき、もう 10 年となったようです。

今大図研年度中には平成という時代が終わり、新しい元号となる予定です。

新しい年・時代はどのようなようになっていくのでしょうか？

当グループでは引き続き、会員相互の交流を深めていくとともに、新たな仲間を増や

していきたいと願っています。

皆様はどのようなことに困っていますか？どのような交流を行いたいですか？  
新たな会場、新たなテーマ、続けていくもの、様々ご意見お待ちしております。  
本年度もよろしくお願いいたします。

のまぐち まさひろ (京都大学北部構内事務部)

● 研究企画 (原 健治)

図書館を離れて1年半が経ちましたが、学部の研究室業務というのも慣れないことばかりで、周囲の皆さんにご迷惑をおかけしているばかりです。ただ研究経費の利用のされ方や学部での意思決定のあり方など勉強になることばかりです。

ただ時折資料購入やデータベース契約等昔取った杵柄で役立つことも多いです。専門職制ではない私立大学においては、そういった職員が学内の各部署に配置されているのもメリットがあるかと思います。大図研の活動がそういった大学すべての構成員の学術研究の一助になれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

はらけんじ (同志社大学文学部事務室、歴史資料館事務室)

● 広報・デザイン / 「大学の図書館」編集 (山形 知実)

2018/2019年度も引き続き、広報・デザインと「大学の図書館」編集を担当させていただきますこととなりました。

異なる機関から人が集まり、悩みや知見を交換できるのが大図研のいいところですがさらにそういった方々と「一緒に仕事をする」機会を持てるのは、こういった会の委員ならではのことと思います。

自分自身も現役図書館員として大いに学ばせていただきつつ、会員のつながりを広げる広報活動、なかなか外に出られない方にも関心を持っていただけるような会誌作成を目指していきたいと思います。

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

やまがた ともみ (北海道大学附属図書館)

● メールマガジン / Web サイト (山上 朋宏)

地域グループ委員として6年目を務めさせていただきます。昨年度に引き続きメールマガジンとWebサイト・MLを担当いたします。どちらも広報の仕事であり、会員の皆様に迅速な情報提供ができるように努めてまいります。

職場でも講習会や資料展示等の広報業務を行っており、タイミングや頻度、手法等何が利用者により効果的なのか試行錯誤をしております。職場と大図研、どちらの経験も互いにフィードバックしより良い広報について探していきたい思います。

1年間どうぞよろしくお願いいたします。

やまがみともひろ (京都大学経済学研究科・経済学部図書室)

● Web サイト / 広報・デザイン (山下 ユミ)

6月に、大学から公共図書館に異動しました。

市町村支援、大学支援の業務を担当し、新たな視点で大学図書館を見るようになりましたが、公共図書館の仕事も大変面白いです。

しばらくは、公共図書館からの視点で大学をみつめながら大図研に所属したいと思っています。

どうぞよろしく申し上げます。

やました ゆみ (京都府立図書館)

● 研究企画 / グループ報印刷と発送 (若狭 あや)

現在、京都大学吉田南総合図書館という1・2回生がよく訪れる図書館で閲覧を担当しております。大学生の時から学生会員という形で参加させていただいてはいたのですが、縁がありまして、今年度より、大図研京都地域グループのグループ委員に入らせていただきました。未熟な点が多いかと思いますが、頑張っけて参りますので、これからどうぞよろしくお願いいいたします。

わかさ あや (京都大学吉田南総合図書館)

● グループ報編集 / 「大学の図書館」編集 (鷺津 彩乃)

現在は育休中で、育児に奮闘する毎日を送っています。今年度の4月には異動先の部署での業務と附属図書館のクラウドファンディングに毎日奮闘していたのを遠い昔のように感じるほど生活は一変しました。検索するのは学術情報より育児情報、通うのも大学図書館より公共図書館です。そんななかでも大図研をきっかけに少しでも最新情報を得たり勉強したりしたいと思っています。

昨年度に引き続き、グループ報と「大学の図書館」の編集を担当させていただきます。自身も学びながら、皆さんにも面白く読んでいただけるよう作っていければと思っています。どうぞよろしくお願いいいたします。

わしづ あやの (名古屋大学附属図書館)

---

---

## 大図研京都ワンデイセミナー

「“羊さん”こと水知せりさん(漫画家)が語る  
「“学術情報の伝達”と“利用者の活用術”」

児玉 恭祐

---

---

2018年5月20日に開催されました、大図研京都ワンデイセミナー「“羊さん”こと水知せりさん(漫画家)が語る「“学術情報の伝達”と“利用者の活用術”」に参加させていただきましたので、部外者で恐縮ですがその報告をさせていただきます。

会場は梅小路公園内にある緑の館でした。ここには「朱雀の庭」という美しい庭園があります。当日庭園には立ち入りませんでした。和室からでも新緑に彩られた美しい庭園が一望できました。ここにはレストランもあるのでぜひお食事がてら庭園も見てくださいと思います。

セミナーの内容について触れる前に、今回講師をしていただいた水知せりさんについて紹介します。水知さんは大学院で法学を専攻され、また司書として大学図書館での勤務経験もあります。現在は難解なイメージが強い法律を擬人化し読者に楽しく分かりやすくした漫画を描かれている漫画家であり、図書館の見学記を4コマ漫画で楽しく伝える取り組みもしている「羊図書館」の管理人でもあります。

今回のセミナーは1部と2部に分けてお話しいただきましたので、ここでも1部と2部に分けてセミナーの内容について触れていきたいと思います。

第1部は「マンガを使った学術情報の伝達について」がテーマで、2つの実践事例から活用法を紹介いただきました。1つ目の実践事例である図書館見学漫画では、いかに読者と思いを共有出来るように作れるかという点を説明いただきました。2つ目の事例の法律擬人化漫画では、まず、擬人化しようとしたきっかけについてお話しいただきました。法律と人とを繋げたいという目的で、そのためには文章で説明するよりもイラストで表現できる擬人化が有効であると考えこの漫画スタイルを始められたようです。執筆する際に気を付けている点を4つ解説頂きました。①デザイン、②特色、③関係性、④資料を紹介することの4点です。まずデザインについていうと、読者の興味を惹くためには読者が何故と思うようなデザインが望ましいです。そしてデザインの段階でどこに擬人化する対象の特色を出すか、ほかのキャラクターとの関係性をどうするかについても考慮し、共通の世界観の下に展開していきます。ここまでうまくできれば読者の興味を惹きつけられやすいですが、漫画は、表現できる情報の量が少ないこと、イラストで理解しやすい点が返って理解したという思い込みになりその後の学習へ誘導するのが難しいという難点もあるそうです。そこで自発的な学習を促す工夫として4つ目のポイントである参考資料の紹介を入れることで、次の学習への道標としてもらうことを期待しているとのことでした。

第1部のまとめとしては、漫画やイラストは受け手の集中力を引き出す、間口を広げるという点で有効なツールです。情報の伝達経路（パス）を広げることで、受け手の獲得手段を増やすことになり情報が伝わりやすくなるという利点があります。そして、工夫次第では自発的な学習を促す効果も期待できます。また、共通の世界観の下でキャラクターを作ることもコンテンツを普及させる上で重要なポイントです。

第2部は「公共図書館と大学図書館のイメージギャップと使い分け」がテーマでした。公共図書館と大学図書館の違いと言えば利用者層と提供サービスがあります。公共図書館の利用者層はその地域に住む住民です。一方、大学図書館の利用者層は学生や研究者です。この利用者層の違いが利用目的の違いを生み、提供するサービスの比重にも影響します。公共図書館は、利用目的は娯楽・学習どちらもあり、サービスは図書の貸出や読書啓発活動が中心です。一方、大学図書館の利用目的は学習寄り、サービスも論文の提供や学術データベースの整備など学習・研究が中心といった違いがあると述べられました。また、図書館の利用者が減ってきているという点には、欲しいときに欲しいものを欲しい形で入手したい利用者側のニーズを実際の図書館側の提供サービスが満たし

ていないことが関係しているとも言及されました。新サービス提供のためには規定から整備しないといけない図書館側の動きが利用者からはルーズなものに写っているようです。ほかにも情報の質と入手手段の変化も見逃せません。図書館に来て資料から情報を得ていたのが、必要な情報はまずはネットで入手し、自分が得た情報が正しいのかその裏付け、もしくは補強に図書館の資料を利用するユーザーも出てきていると指摘がありました。情報の入手は容易になりましたが、その信頼度は低くなっているのが現状だと感じます。

以上のような中で「図書館」の持つ共通項と独自色の出し方について水知さんの考えを絡めて述べてくれました。水知さんは、図書館の要素として箱となる場所、中身としての資料、そこで働く人の3要素を挙げられました。これらの水準が全国で一定以上であるため、どこにいてもある程度共通したサービスを私たちは受けることができます。そして図書館の独自色を出そうとするならこの3要素を強化すればよいのですが、制約もあり、すべてに手を回すことはできません。3要素のどこに比重を置くか、それによって独自色は自ずと違ってきます。場所に注目すれば、理想としては毎日通いたいと思わせるような図書館です。そのためにはその図書館（場所）でしか行われていないサービスの提供などが考えられます。資料に比重を置けばある分野に強みを持たせるような蔵書構築を進めるか、テーマ展示などで自館にある資料をアピールしていくことも考えられます。人に着目するなら、独創的な企画ができ、それを実践できる能力を持つ人材の育成が考えられます。そのためには基本能力だけでなく、自身のキャリアを伸ばせる環境整備も求められます。そして独自色を打ち出すのに大切な指針となるその図書館の目指すコンセプトが明確である必要があります。このときに注意してほしいのはそのコンセプトが図書館側から利用者にとってほしいという要望なのか、それとも利用者側から図書館にとってほしいという要望なのか考えること、そしてコンセプトの核がぶれないことです。

第2部のまとめとしては、様々な制約がある中、人を惹きつけるサービス・特色を出すためには、場所、資料、人の3要素をどう充実させるかが重要です。また、サービス利用者の感想をフィードバックしサービスの向上・新規提供に役立てるサイクルの整備も求められます。そして、自館のコンセプトがぶれないということも重要です。もちろん意見を取り入れて修正もしますが、核となる部分がぶれないことで利用者の求める要望にどこまで対応できるかが明確になりますし、ここがぶれるとやがて信頼をなくすことにも繋がります。図書館員としても利用者とのギャップを埋めるためにも理想を実現するのはだれか常に考え、そのために必要となるスキルの向上に努めるなど個々のキャリアを伸ばしていく必要があります。

最後に本セミナーを通して私が考えたことを2点書きたいと思います。1点目は「止まっている」図書館員になる危険性についてです。情報技術の発展についていけずまた関心も持たない図書館員を水知さんは「止まっている」図書館員と表現しました。図書館員は、かつては本という形のある情報と人をつなげるエキスパートでありました。これからは本に加えてネット上の形を持たない情報と人とを結びつけることが求められます。情報技術の発展はそのまま情報提供の方法も変えてきています。技術の進歩に興味を持ち進んで取り入れていけるような好奇心を持ち続けたいと思いました。

2点目は情報の価値の変化についてです。情報技術の発展はこれまで埋もれていた多くのデータの可能性を見出しました。そのデータとはビッグデータに代表される「今」

の情報が多い中、これまで価値が見いだせなかった「過去」の情報にも価値が見いだされてきたという指摘は目から鱗でした。「過去」の情報として考えつくのは歴史的資料を電子化したアーカイブでしょうか。電子化されアーカイビングされた歴史的資料の利用件数が増えてきているというニュースも聞きます。評価されなかった情報が評価され始めたということはこれまでなかなか利用してもらえなかった資料にも希望がみえてくるかもということではないでしょうか。いつか日の目を見ることを夢見て資料の紹介、電子化やアーカイビングを進めていければと思いました。

最後になりますが、講師の水知せりさんとこのような貴重なセミナーを開催して下さった大図研京都地域グループの皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

こだま きょうすけ (滋賀医科大学附属図書館)

◇ 会費ご納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

2016/2017年度(2016年7月～2017年6月)より、大学図書館問題研究会会費は、すべての会員の皆さまに、直接大学図書館問題研究会事務局へご納入いただくこととなりました。

一括徴収方式に移行し、3年目となりますが、京都地域グループは年度継続の前に会費をご納入いただく前納があまり進んでいない状況でございます。ワンデイセミナーやグループ報は京都地域グループ費により開催・発行させていただいております。ご多忙のところ大変恐縮ですが、会費のご納入のほどよろしくお願いいたします。

**会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都地域グループ費：¥2,000)/年度です。**

**【振込先】**

郵便局 00190-2-79769 大学図書館問題研究会

■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900 ■店番 019

■預金種目 当座 ■店名 〇一九(ゼロイチキューウ店) ■口座番号 0079769

ご不明な点は大学図書館問題研究会事務局(会費担当)(kaihi@daitoken.com)までご連絡ください。

※ 学生会員制度(試行)として、学生の方には特典をお渡ししております。

詳細は京都地域グループ Web サイトの「学生会員制度の試行について」をご覧ください。